



## 山田安民 篇2

### 教育の先駆者

山田安民は、教育にも尽力しました。日本の視覚・聴覚障がい者に対する教育は、京都、次いで東京で開始されました。その後、各地の有志によって、視覚・聴覚障がい者のための学校が設置されていきました。しかし、奈良県では、県議会が施設の設置を建議(明治38年/1905)したものの、財政難のため実現しませんでした。

このため、安民は、私財を投じて奈良県最初の盲ろう教育施設を創設しました。大正9年(1920)、「私立盲啞学校」を設立し、学校の経営を財政面から支えました。当初、日本聖公会奈良基督教教会(奈良市)の2階の部屋を借りて、盲児4人で始めました。

その後、昭和6年(1931)には、奈良県に移管され、「奈良県立盲啞学校」(現在の県立盲学校・県立ろう学校)と改称されました。安民によって学校が創設された日本聖公会奈良基督教教会の入口には、奈良県立盲学校同窓会によって、「奈良県における障害者教育発祥の地」と刻まれたプレートが掲げられています。

このように奈良県立盲学校は、大正9年を創設とし、今年には創立100周年を迎えます。安民の思いが今に伝えられています。

「信天堂山田安民薬房」を引き継いだ長男の輝郎きろウは、昭和24年(1949)、社名を「ロート製薬(株)」に改組し、社長に就任しました。輝郎も父と同様、故郷の教育に尽力し、小学校や文化センターなどの建設に尽力しました。

